

34 童話

場面：子ども番組

状況：嫌われ者のオオカミ、ガルフの独白

登場人物：A（オオカミのガルフ）

A：俺の名前はガルフ。森に一人で住んでいるオオカミだ。近くの森に住む動物たちと仲良くたくて、いたずらをしてたり、驚かしたりしているんだけど、なぜかみんな仲良くしてくれない。

俺は食べるのが大好きだ。何よりも好きだ。だから、食べ物を見ると何でも食べたくなってしまう。そのへにある、誰のものかわからない食べ物も、おいしそうだったら、つい、（ぱくっ）取って食べてしまうんだ。

ある日、森の中に食べ物があるのを見つけた。くんくん、いいにおいがする。これは食べたなら絶対、おいしいにちがいない。俺はその食べ物を食べた。（ぱくっ）そしたら上から大きな箱が落ちてきて（ドーン）、その中に入ってしまった。（ドンドン）出られなかった。俺は「おーい、出してくれ！」と大きな声で叫んだ。そうしたら、（ひょこっ）近くの森のウサギが現れた。そして大きな声で「いつも悪いことばかりしている、ガルフ！もう二度と、悪いことはしないか？」と言った。俺は、よく意味がわからなかったけど、とにかくこの箱の中から出たかったので「ごめんなさい。もうしません」と言った。そしたら（ガサゴソ）出してくれた。ああよかった。やっと出られたぜ。

でも待てよ。俺はどうしてこんな目にあっただ？何か悪いことをしたのか？確かに、さっき食べ物を勝手に食べたのは、良くなかったかもな。でも、他に何かしたかな？もしかして、いたずらしたり、驚かしたりしたこと？でも、それは、みんなが面白がってくれると思っただけからなんだ。なのに、俺は悪者になってしまっている…。どうしたらみんなと仲良くなれるんだろう。